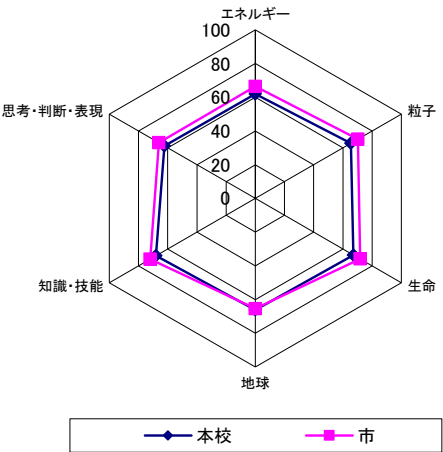


宇都宮市立陽西中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	62.0	66.5	61.2
	粒子	65.4	70.2	62.3
	生命	67.1	71.8	65.7
	地球	66.2	65.4	61.0
観点別	知識・技能	68.1	72.0	67.3
	思考・判断・表現	62.2	66.0	58.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	市の平均正答率を4.5ポイント下回っている。 ○音の波形や音さの問題では、正答率が約7割であり、音についての理解ができていると考えられる。 ●電流の問題では、正答率が約5割であった。回路に加わる電圧や、電流の規則性、オームの法則への理解不足であると考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・エネルギー分野は、実験結果から考察する場面が多いため、時間の確保に努めるとともに、思考・表現する力を高めていく。 ・計算問題や作図問題に苦手意識を持っている生徒が多い。基本的な練習問題等に時間をかけることで、定着を図っていく。
粒子	市の平均正答率を4.8ポイント下回っている。 ○気体の性質の問題では、正答率が約7割であり、アンモニア等の気体についての理解ができていると考えられる。 ●物質の化学変化の問題では、正答率が約5割であり、分解等の化学変化について理解不足であると考えられる。	・2年生の化学変化の単元では、実験から導き出される結果について、考察する時間を十分に確保することで、科学的に思考・表現する力や観察・実験の技能を高めていく。 ・粒子領域では、目に見えないため、モデルやパソコン教材などを使い、視覚に訴えるなど工夫して、定着を図っていく。
生命	市の平均正答率を4.7ポイント下回っている。 ○シダ植物やコケ植物の問題では、正答率が約7割であり、胞子で仲間を増やす植物について理解ができていると考えられる。 ●消化のしくみの問題では、正答率が約6割であり、人の体内での栄養の消化について理解不足であると考えられる。	・生命分野では、観察を通して考察し、現象の理解を深めさせていくことを授業の中で取り組んでいく。 ・刺激を受けてから反応するまでの信号の経路については、刺激を受け取る感覚神経の場所によって違うため、日常生活と関連させながら、理解を深めさせていく。
地球	平均正答率は、市の平均を0.8ポイント上回っている。 ○天気の前線の問題では、正答率が約7割であり、前線についての理解ができていると考えられる。 ●火山の噴出物や鉱物の問題では、正答率が約5割であり、理解不足が考えられる。	・地球の領域については、ある程度定着が図られている。授業の中でも、基本的な用語の確認はもとより、発展的な問題についても取り組んでいく。